

博士課程教育リーディングプログラム 平成24年度プログラム実施状況報告書

採択年度	平成24年度		
申請大学名	京都大学	申請大学長名	松本 紘
申請類型	複合領域型（情報）	プログラム責任者名	淡路 敏之
整理番号	K02	プログラムコーディネーター名	石田 亨
プログラム名	デザイン学大学院連携プログラム		

<プログラム進捗状況概要>

1. プログラムの目的・大学の改革構想

本プログラムでは、「デザイン学」を共通言語とする専門領域横断的な教育プログラムを編成し、協働を担い得る博士人材の育成を行う。即ち、様々な場面でイノベーションを主導し、社会を変革できる専門家の育成を目標とする。このような人材を、ジェネラリストを意味する「T字型人材（T-shaped people）」と対比させ、専門領域を超えて協働し社会を変革できる突出した専門家という意味を込めて「十字型人材（+shaped people）」と呼び、本プログラムが養成すべき人材像とする。本プログラムでは、Cyber（情報学など）とPhysical（工学など）の専門家が、経営学、心理学や芸術系の専門家との協働を通じてデザインが行えるよう、総合大学の長を生かして、4つの研究科／専門職大学院（11専攻）が連携している。さらに、国内外のデザイン学を指向する大学院やそうした教育を求める産業界と連携し、6年の期間を通じて、国際標準と成り得るデザイン学博士課程を確立する。

2. プログラムの進捗状況

25年度から開始される履修生の受け入れの準備を精力的に進めた。具体的には、教育プログラムの立ち上げが円滑に進むよう、学際融合教育研究推進センターの下にデザイン学ユニットを新設し、教授会、教育委員会、運営委員会を設け規定を整備した。

教授会においては、問題発見型学習、問題解決型学習を企画・実施するためのコーディネーション能力に優れた教員の選考を行った。さらに、様々な教育プログラムの企画や、海外からの教員、博士課程学生をサポートできる職員の選考を行った。教育委員会においては、5年一貫のカリキュラムを整え、シラバスを用意し、25年度からの履修生募集の準備を行った。運営委員会においては、産学官連携の中核となるデザインイノベーション拠点を、産業集積が進む京都市リサーチパーク内に設け、教育研究環境ならびに実験設備等を整えた。また、吉田、桂、宇治の3キャンパス、京都市立芸術大学、デザインイノベーション拠点をつなぐ遠隔協働システムを導入した。

また、産学官連携、国際連携を進めるため、産学デザインシンポジウムと国際デザインシンポジウムを開催した。これらのシンポジウムは、今後、毎年開催する。さらに、Webサイトを整え、情報発信を通じて本プログラムを世界にアピールする準備を行った。